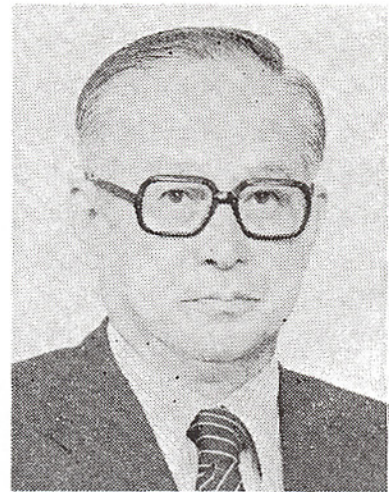


祝 辞

日本化学繊維協会 会長 宇野 収

高分子学会が設立 30 周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

振り返ってみますと、高分子学会の前身である日本合成繊維研究協会が設立されたのは昭和 16 年で、米国におけるナイロン発明の報に、戦雲急を告げる中、わが国における合成繊維開発促進のため、産学官共同で研究に取り組むことになったものであります。その後、研究内容も高分子全般に拡大され、高分子化学協会を経て、今日の高分子学会に至っております。このように、高分子学会はわが国合成繊維研究の原点であり、わが国化学繊維工業の今日の発展は、学会における研鑽と相互啓発の賜物であるといっても過言ではありません。



わが国の化学繊維工業の現況は、残念ながら、昭和 48 年の石油ショック以来、原燃料面で優位に立つ米国、人件費が安く、新鋭設備を有する近隣諸国の間にあって、深刻な構造不況に陥り、その前途は多難なものとなっております。これを打開するためには、徹底したプロセスの合理化とともに、商品の高付加価値化、新しい高機能繊維の開発が急務であり、現在業界をあげて努力を続けているところであります。また業界各社では、事業の安定化のため、これまで培われてきた高分子化学の知見や微細加工技術を応用して、人工臓器などの医療分野や、光通信などの情報分野も手がけつつあり、さらにバイオケミストリーやエレクトロニクスの分野にも進出を図っております。

高分子化学は既に壮年期にあるといわれ、一般繊維用素材としての新しい化学組成の高分子開発は、あまり期待できないと思われまふ。しかし、高分子の微細構造を制御することによって、画期的な機能を発現させることが可能であり、このようなポリマーファインケミストリーの発展により、各種の機能性高分子材料が開発されることが期待されます。自然界においては、植物はもちろん、動物もその根幹をなすものは巧妙な機能をもった繊維であり、機能性高分子材料を繊維化することによって新しい繊維分野が開拓されるのではないかと期待されます。

このようにみても、化学繊維業界の将来にとって、高分子化学の発展は不可欠であり、今後とも産学交流の場として、貴学会のますますのご隆盛を祈念するものであります。

祝 詞

日本プラスチック工業連盟 会長 鳥居 保治

貴会学が高分子科学の進歩、産業の発展さらに生活・文化の向上を期し、英知と活力をもって、幅広い活動を繰り広げられ、輝かしい設立 30 周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

日進月歩の時代とは言え、わずか 30 年の間に、貴学会がめざましい隆盛を築き上げられ、国際的にも高い評価をお受けになっておられることに深く敬意を表しますとともに、広く産業界に多大の貢献をしていただきましたことに対し、プラスチック工業に携わる私どもは常日頃から感謝いたしておりますが、ここに重ねて謝意を表する次第であります。



さて、ここ 10 年来、資源・エネルギー問題をはじめとし、幾多の難問が山積した厳しい環境下にあり、これらの諸問題を克服し、新時代への適応の道を開拓しなければならないことは周知のとおりであります。